

# 要配慮者利用施設避難確保計画 講習会（ワークショップ）について

平成31年3月  
延岡市危機管理室

## 講習会（ワークショップ）の概要

- ▶ 開催日：平成31年2月6日、7日
- ▶ テーマ『災害時に安全に避難する方法』  
『災害時に安全に避難するための体制』
- ▶ 活発な討議が行われました。  
すべての班の討議結果を確認したところ、次頁  
以降のとおり集約されましたので、報告します。

# ワークショップで挙げられた課題

- ▶ 家族との連携？
- ▶ 訓練の実施？
- ▶ 避難経路の選定？
- ▶ 情報収集・伝達？
- ▶ 体制の確立？
- ▶ 判断？
- ▶ 避難場所の選定？
- ▶ 誘導？
- ▶ さまざまな想定？



## 『家族との連携』：課題

- ▶ 家族との連絡体制（例）電話が不通
- ▶ 家族との再会方法
- ▶ 家族が迎えに来た時の対応（例）駐車場誘導
- ▶ 家族への連絡のタイミング
- ▶ 避難開始の連絡方法

## 『家族との連携』：解決策

- ▶ 家庭の状況も考えながらの実施
- ▶ 家族との情報共有
- ▶ 保護者再会マニュアルの作成
- ▶ 家族の連絡の仕方を決めておく  
（例）誰でもできるように
- ▶ 早めの連絡
- ▶ 家族の連絡網を作成する
- ▶ 連絡体制の明確化

## 『家族との連携』：まとめ

- ▶ 課題としては、家族へ連絡を行うタイミング、家族への連絡手段、家族の迎えが来た時の対応についてどのように行うべきかが課題として挙げられていました。
- ▶ 解決策としては、家族への連絡方法については誰にでもできるような方法を定める、家族への引渡しマニュアルを作成する、家族へ早めに連絡をするなどが話し合われていました。
- ▶ 何を基準として判断を行い、いつ、誰が、どのように家族に連絡を行うのかの基本を定めておき、被災状況に応じて臨機応変に対応できるようにしておきましょう。

## 『訓練』：課題

- ▶ ケースごと訓練ができていない  
（例）夜間、土砂災害
- ▶ 要配慮者のパニック状態への対応
- ▶ 車で避難する場合訓練
- ▶ 指定避難所までの避難訓練
- ▶ 細かい想定訓練

## 『訓練』：解決策

- ▶ 訓練を増やす
- ▶ 合同避難訓練→課題を見つける
- ▶ 部署ごとの訓練
- ▶ 訓練で練習
- ▶ 定期的に訓練を行う
- ▶ 付近の住民を含めた訓練・連携・協議
- ▶ （例）夜間
- ▶ 抜き打ち避難→危機感を持つ
- ▶ 地域の避難訓練への参加
- ▶ 実践的な訓練の実施
- ▶ 災害リスクごとの訓練
- ▶ 意識の継続
- ▶ 避難する時間帯を複数想定
- ▶ 毎月の訓練での意識づけ
- ▶ マニュアル（訓練）作成
- ▶ 車か歩きかのパターンで実施
- ▶ 人員不足を想定した訓練

## 『訓練』：まとめ

- ▶ 訓練については、さまざまな想定での訓練が行えていないことや、訓練実施時にパニック状態の要配慮者への対応について、などが課題として話し合われたようです。
- ▶ 解決策として、これまで以上に訓練を増やすこと、さまざまな想定や規模で行うこと、地域の訓練に参加すること、などが話し合われたようです。
- ▶ なお、要配慮者の心情に配慮し、いかに安全に避難行動を実施するかについては、『誘導』の課題にも記載しましたが、複数の施設で課題として挙げられていたようです。『誘導』の『解決策・対応事例』にある誘導の工夫や、日頃の散歩の際に避難場所まで歩いて行くなど、避難行動を日常に取り入れるなどの工夫が、参考になるのではないのでしょうか。
- ▶ 訓練は、避難確保計画に定めたものが、要配慮者を安心安全な避難行動につながっているかを確認する機会でもあります。訓練実施時に気づきや改善点を避難確保計画に反映させていくことが重要です。

## 『避難経路の選定』：課題

- ▶ ブロック塀など危険個所の多さ
- ▶ 避難経路の安全が不明
- ▶ 主要道路が少ない
- ▶ 道路の冠水
- ▶ 避難経路が通れない場合の対応
- ▶ 移動時の経路が危険
- ▶ 道路がせまい
- ▶ 避難経路の共有

## 『避難経路の選定』：課題

- ▶ 施設周辺の地理情報を知っておく
- ▶ 避難経路の確保
- ▶ 災害の想定される場所を把握
- ▶ 複数ルートを設定する
- ▶ 避難経路 安全な道（経路）
- ▶ 付近の道路等の状況把握しておく
- ▶ 早めの避難

## 『避難経路の選定』：まとめ

- ▶ 避難経路の選定においては、避難経路やその周辺の危険性や道路の広さ、災害時の道路の普通などを想定し、避難経路の選定に苦慮している施設もあるようです。
- ▶ 避難経路を選定した施設においては、地理情報や災害が発生する可能性を確認し、万が一に備え複数ルートを設定しているようです。
- ▶ 場所によっては、道路が冠水するなど、雨の降り始めから時間が経過するほど避難経路の選定が困難になる可能性があることから、早めの避難が重要です。
- ▶ 地域の避難訓練に参加するなどして、施設周辺の過去の浸水などの危険箇所を近隣住民に確認しておくこと、避難時の危険を回避することにつながると考えます。

# 『情報収集・伝達』：課題

- ▶ 情報が信頼できるか
- ▶ 情報伝達方法
- ▶ 職員の情報共有の方法がわからない
- ▶ 安否の伝達 連絡の手段
- ▶ 患者がいる時間情報収集
- ▶ 施設外に出る場合が困難
- ▶ 情報共有のツール
- ▶ 情報収集の方法（停電）
- ▶ 情報の周知（避難判断）
- ▶ 情報の整理
- ▶ 情報元が複数あって悩む
- ▶ 職員へのスムーズな情報の共有
- ▶ 誰が情報をまとめるのか
- ▶ 避難後の連絡体制の確立
- ▶ 避難先がわからない
- ▶ 連絡網の活用が不安
- ▶ 道路情報
- ▶ TV・ラジオを見れる時間なし

# 『情報収集・伝達』：解決策

様々な手段の活用の例

- ▶ スマートホン
- ▶ タブレット
- ▶ ラジオ
- ▶ SNS
- ▶ 連絡網
- ▶ 防災メール
- ▶ アプリ
- ▶ テレビ
- ▶ 一斉メール
- ▶ 災害伝言ダイヤル
- ▶ らくらく連絡網・
- ▶ 関係機関のホームページ
- ▶ スマホアプリ（気象庁・NHK）

※SNSの活用

- 全員が確認できるかわかりづらい
- 前の情報を検索するのに苦労する

※一斉登録をしていない人

- HPを見てと案内している

## 『情報収集・伝達』：解決策

- ▶ 連絡体制はできているところもある
- ▶ 避難時の情報の確保 早めの情報確認
- ▶ 近隣の学校や気象庁から情報収集
- ▶ 情報収集（雨量等）
- ▶ 電話が不通になった時はメール・SNS
- ▶ 携帯電話等の活用
- ▶ 様々な手段の活用
- ▶ 職員+来訪者等への連絡
- ▶ 正しい情報収集
- ▶ 公衆電話はOK
- ▶ 情報源を見直す（テレビ・アプリ）
- ▶ 早期のうちに連絡する（洪水も考えて）昼のうちに情報収集
- ▶ 連絡網の整理

## 『情報収集・伝達』：まとめ

- ▶ 円滑な避難には避難に関する情報をだれが、どのタイミングで、何を収集し、その情報で誰が、どのように、何をするか、そのために職員間でどのように共有するかについてなどを、事前に決めておくことが重要です。
- ▶ 情報収集をそのときいる職員が通常業務に加え行うのか、他の職員を招集するなど緊急時の体制を組むのか、また、職員間の共有のために誰が発信し、どのような方法を用い、共有するか、また、その情報をどのように整理するのが課題として挙げられていました。
- ▶ 解決策としては、早めに情報収集を行うことや、さまざまなツールの活用などが話し合われたようです。
- ▶ 情報収集においては、スマートフォン・タブレット・ラジオ・防災メール・アプリ・テレビ・関係機関のホームページ・スマホアプリ（気象庁・NHK）などの活用、情報伝達においては、SNS・連絡網・一斉メール・災害伝言ダイヤル・らくらく連絡網などの活用が提案されていました。
- ▶ 市からの情報を受信するだけでなく、積極的にさまざまな情報を入手しましょう。

## 『体制』：課題

- ▶ 災害時対応と通常業務の並行
- ▶ 人員配置をどうするか
- ▶ 職員参集基準
- ▶ 指示・命令系統
- ▶ 役割分担
- ▶ 職員間の連携
- ▶ 車の運転手の数
- ▶ 関係者との連携：地域・行政
- ▶ 関連施設が各地区に点在
- ▶ 各職員への計画書内容の周知
- ▶ 危機感の個人差
- ▶ 孤立の場合
- ▶ 職員メンタルフォロー

## 『体制』：解決策

- ▶ 非常勤スタッフへの避難計画研修
- ▶ 訓練・研修：全職員への周知
- ▶ 人材確保の名簿作り（区長・民生員）
- ▶ 避難場所まで安全に行けるか確認
- ▶ 先に避難組と待ち組の職員体制
- ▶ 緊急時に対応できる人を多めに
- ▶ 台風時は利用しにくいことを説明
- ▶ あいさつ
- ▶ 役割分担についてはマニュアル
- ▶ 会議などで共有→どのように動くか
- ▶ 休日呼び出しのアンケートを取った
- ▶ 状況に応じた体制作り→あらゆる方法
- ▶ 近所づきあいを密にしておく
- ▶ 参集の基準をあらかじめ決めておく
- ▶ 他施設の協力
- ▶ 安全ボランティアの活用
- ▶ 定期的に計画の見直しと周知が必要
- ▶ 台風大雨前スタッフ決定や会議を行う
- ▶ 台風大雨にスタッフ増員する
- ▶ 利用者に応じた職員の配置
- ▶ 訓練に地域の方に参加してもらう
- ▶ 不在の人がいてもできる計画を
- ▶ 職員の所在地マップ・集合時間の把握
- ▶ エリアでの情報交換
- ▶ マニュアルの情報交換
- ▶ 地域を交えた情報交換
- ▶ 施設内ミーティングの強化

## 『体制』：まとめ

- ▶ 安心安全な避難行動を行うための体制確保については、どのような基準で参集してもらおうのかや、どのような人員配置にするのか、職員への教育をどのように行うか、非常時に地域と助け合うための体制づくり等が課題とされていました。
- ▶ 解決策として、職員参集基準や体制確立マニュアルの作成、平時からの地域との連携、人員体制の見直しなどが話し合われたようです。
- ▶ なお、地域との連携においては、地域住民だけでなく、エリアでの情報交換も検討されているようです。
- ▶ 円滑な避難誘導のためにも、職員研修や訓練の重要性が話し合われているようです。危機管理室では、出前講座も行っておりますので、御活用ください。

## 『判断』：課題

- ▶ 誰が、いつ、どのタイミングで行うのか
- ▶ 異常時の発見がスムーズに行えるか
- ▶ 避難の決定権
- ▶ 下校時刻による避難のタイミングのずれ
- ▶ 情報とタイミング（空振りの心配）
- ▶ 送迎をするかしないか
- ▶ 初期情報の決め方
- ▶ 初期避難のタイミング
- ▶ 浸水対策を開始する際の見極め
- ▶ 家庭に帰すべきかととどめるべきか
- ▶ 自宅待機依頼の判断
- ▶ 避難か引き渡しかの判断

## 『判断』：解決策

- ▶ 情報収集→判断
- ▶ 人命を大切にした（第一とした）計画
- ▶ 早期判断
- ▶ 大雨警報または洪水警報発令時
- ▶ 避難準備…が発令されたら
- ▶ 教育委員会との対応
- ▶ 情報を早めに得て中止、休診
- ▶ 1人1人が判断
- ▶ 災害情報の利用
- ▶ 誰でも判断できる基準づくり
- ▶ タイミングの明確化
- ▶ 休診をする
- ▶ 注意報での警戒体制
- ▶ 雨量情報チェック
- ▶ 市のメール確認
- ▶ 雨の降る前に避難開始
- ▶ 事前に計測した時間の前ぐらいに開始
- ▶ 避難準備・高齢者等避難開始情報
- ▶ 職員とその家族を守る着眼点
- ▶ 住民に過去の災害時の状況を聞く
- ▶ 情報を早めに入手
- ▶ 日中のうちに情報収集 早めに避難
- ▶ 判断するタイミング・方法の事前計画

## 『判断』：まとめ

- ▶ 体制確立や避難開始、避難するのかもしれないのかなどの判断については、いつ、誰が、どのタイミングで行うかが課題として挙げられ多様です。
- ▶ 解決策として、早期判断を行うことや、一人一人が気づき、判断できるような体制及び状況づくりなどが話し合われたようです。
- ▶ また、避難開始の判断のきっかけとして、『避難準備・高齢者等避難開始』など、具体的に挙げて話し合ったところもあるようです。
- ▶ 早期の避難を行うには、早期に判断し、できるだけ早く避難のための準備を行う必要があります。
- ▶ 利用中止とする場合、送迎するのか、家族対応とするのか、付き添い無しで帰宅させるのかなど、想定される状況への対応はあらかじめ家族と話し合っておきましょう。

## 『避難場所』：課題

- ▶ 避難所の場所がわからない
- ▶ 安全な場所とは？
- ▶ 簡易トイレ トイレの問題
- ▶ 高齢者受入は大丈夫か
- ▶ 高齢者を移動させるのが大変な為2階に個人のビルが利用可能か？
- ▶ 自施設にとどまるかどうか
- ▶ 指定の避難場所が遠い
- ▶ 発生する前の現地確認方法
- ▶ 場所での過ごし方（体調不良者、傷者）

## 『避難場所』：解決策

- ▶ 避難場所を日常的に考えておく
- ▶ 水平→垂直の対応
- ▶ 避難できない→高いビル
- ▶ 事前に避難場所の把握
- ▶ 避難場所を職員全員が認識しておくこと
- ▶ 第二第三の避難場所の候補を決めておく
- ▶ 避難フロア割り当て
- ▶ 指定避難所へ避難する

## 『避難場所』：まとめ

- ▶ 避難場所については、場所の設定について課題が挙げられ、解決策として、事前の避難場所の確認や複数の避難場所を設定することなどが話し合われたようです。
- ▶ 避難場所が遠い等については、『判断』にもあります、早めの避難を行うなどの対策も共通する解決策であると考えられます。

## 『誘導』：課題

- ▶ 洪水時職員の役割分担
- ▶ 急な変化に対応するのが難しい
- ▶ 施設の車がない（職員駐車場が遠い）
- ▶ 搬送の人手の確保
- ▶ 行政（消防）などに頼めるのか
- ▶ 要配慮者をどのように運ぶのか・
- ▶ 安全な場所への移動距離
- ▶ 移動手段 車を使えるか 雨の中徒歩？
- ▶ 外来患者の避難について
- ▶ 送迎中の対応でむずかしい
- ▶ 指示が伝わりづらい
- ▶ 停電した場合エレベーターが使えない

## 『誘導』：解決策

- ▶ 早めの避難
- ▶ 道路の確保：複数
- ▶ 混乱を起こさず落ち着いて行動する
- ▶ スタッフの人数の確認
- ▶ 施設に車を待機（車内も広げている）
- ▶ マニュアルの作成：その周知・訓練  
→〇〇な時どうするか
- ▶ 利用者ごとのハザードプラン
- ▶ 絵や楽しい好きな物・ジェスチャーで説明
- ▶ 事前に（職員が多いときに）上階に
- ▶ 毎日避難計画を作る
- ▶ 誰が誰を運ぶのか決めている
- ▶ 優先順位：ホワイトボードに記入
- ▶ パニック状態の方に説明（避難訓練）
- ▶ 事前の順位の整理
- ▶ 人の配置
- ▶ 布タンカなどの利用
- ▶ できることは早めに行う ※人命が第一
- ▶ 班わけ
- ▶ 安全に動ける人が先に動いて情報収集  
まず向かう
- ▶ 避難者トリアージ（時間帯によっては）
- ▶ 個別対応：残存能力の組み合わせ
- ▶ 散歩車・リヤカー・車での避難
- ▶ 日頃から運転手は迂回路等を把握
- ▶ 混雑時の時間
- ▶ 歩行可能な方には散歩と説明
- ▶ 各利用者の家族に避難プランを提示
- ▶ 利用者および家族への連絡図あり
- ▶ 対応のパターンを作る
- ▶ 市と連絡をとり避難施設へいく

## 『誘導』：まとめ

- ▶ 誘導については、要配慮者を安心して誘導するためにどのように誘導するかが課題として挙げられていました。
- ▶ 解決策として、さまざまな用具等の活用、誘導順位の設定、マニュアルの作成等が話し合われたようです。
- ▶ 誘導については、利用者ごとのプランを作成し家族等に説明していたり、各利用者の家族に避難プランを提示したりしているとの工夫例が情報共有されたようです。

## 『想定』：課題

- ▶ 医療度の高い方（器具等が必要な方）は？
- ▶ 園外保育等を行っているとき
- ▶ 外出時
- ▶ 患者の受け入れ（分娩入院）
- ▶ 送迎中の災害
- ▶ 自宅まで帰れないとき
- ▶ 手術中に発生したら
- ▶ 断水時の対応
- ▶ 停電時の対応（夜間含む）
- ▶ ドアが開かない時
- ▶ 分娩時の対応
- ▶ 前触れなく突然の大雨などで浸水
- ▶ 夜間時
- ▶ 避難先での医療ケアの確保について

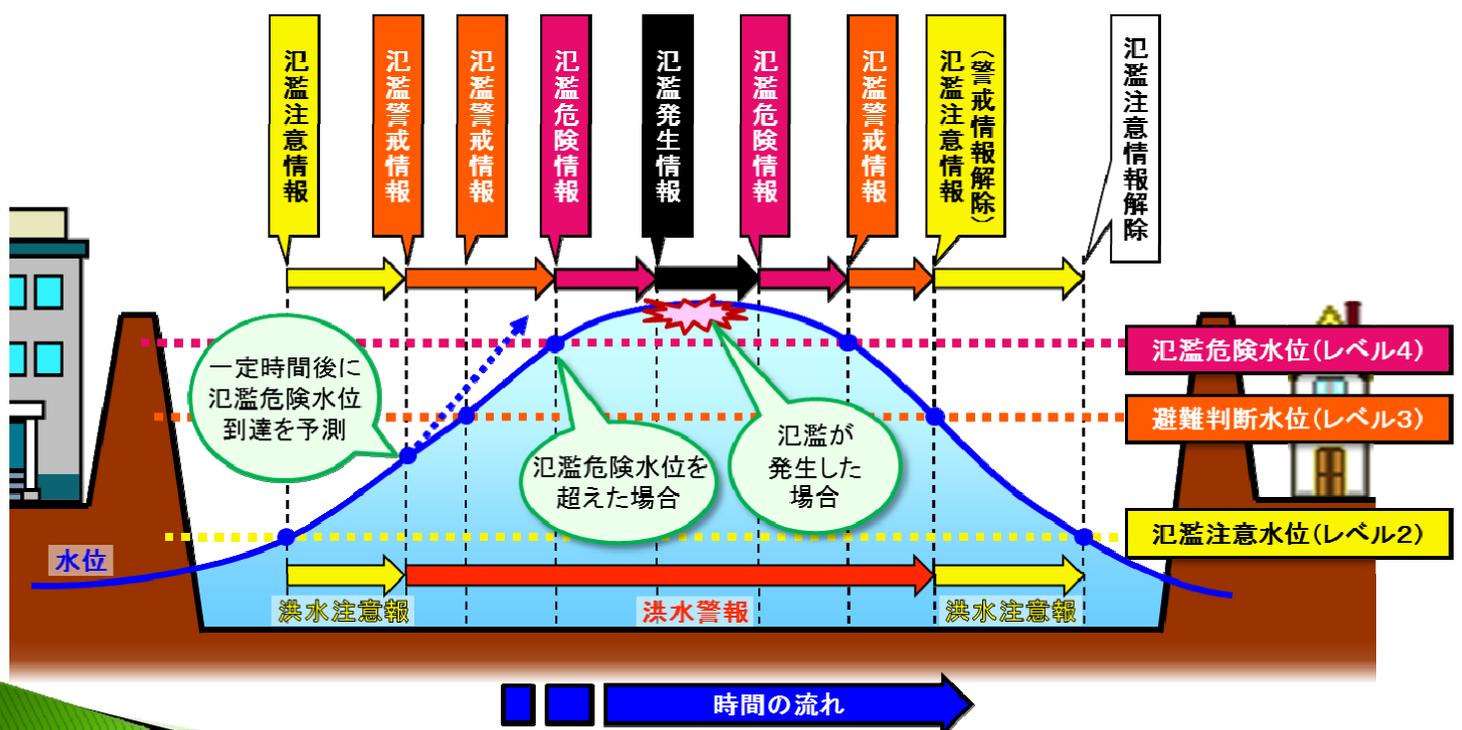
## 『想定』：解決策

- ▶ 様々な想定 of 訓練をする

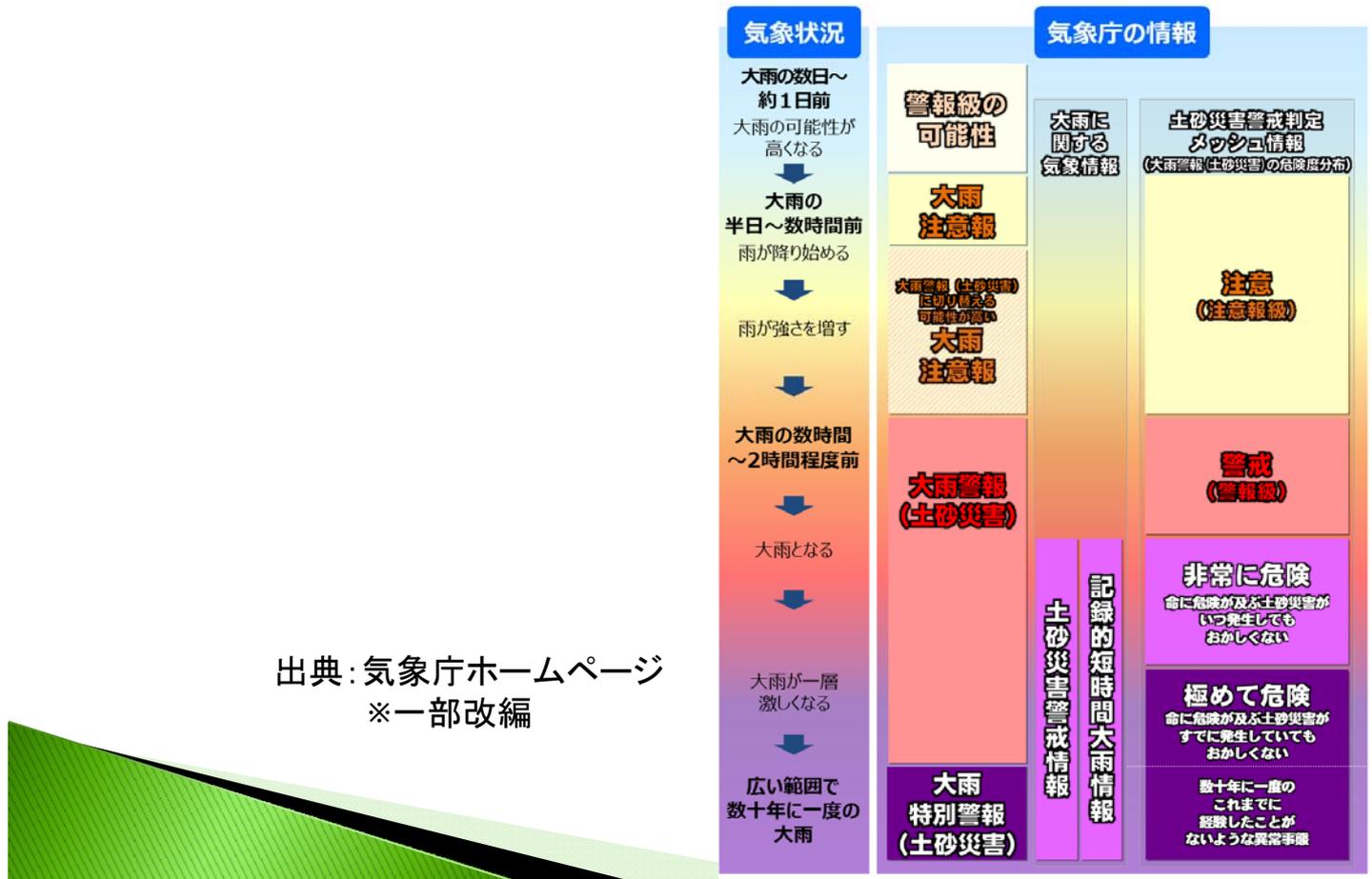
# 『想定』：まとめ

- ▶ 避難行動を考えるにあたり、さまざまな場面においてどのように対応すればよいのか、話し合われたようです。
- ▶ 1月9日開催の講習会（座学）の配布資料や気象庁が作成している資料を参考に、日頃の業務が停電などにより休止せざるを得ない状況になった場合や、避難誘導時に発生する対応などを時系列的に考え、解決策を避難確保計画に盛り込んでおきましょう。

## 洪水に関する防災気象情報の活用



# 土砂災害に関する防災気象情報の活用



## 留意事項

- ▶ ワークショップ結果を取りまとめるにあたって、御留意いただきたい事項を、いかのとおりまとめました。

## 留意事項①

- ▶ 集約作業を行っていたところ、『避難場所が広場である』『津波からの…』といった津波から身を守る対策も複数話し合われていました。
- ▶ 今回の避難確保計画作成及び訓練の実施の義務化は、『水防法』『土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律』に基づく『洪水浸水想定区域』及び『土砂災害警戒区域』内の要配慮者利用施設を対象としています。市ホームページで再度、内容を御確認ください。

## 留意事項②

- ▶ 目の前に迫った、災害の危険から命を守るために避難する場所として、あらかじめ市が指定した『指定緊急避難場所』については、風水害・土砂災害（洪水時）、地震・火災時、津波発生時ごとに指定しています。
- ▶ 災害の種類により、避難場所は異なり、洪水時は小学校などの建物を指定しています。
- ▶ 自施設にとどまる場合をふくめ、指定緊急避難場所以外に避難場所を検討する場合、洪水・土砂災害時は風雨が予測されますので、風雨がしのげる場所で洪水浸水想定区域や浸水深、土砂災害警戒区域などを確認し、安全な場所を選定する必要があります。

## 留意事項③

- ▶ 自衛隊による救助は、原則、市が県に要請し、県知事などからの要請を受けて開始されます。
- ▶ 要配慮者利用施設においては、早めに避難行動を開始するなど、安全な時間帯に避難を完了できるように、要配慮者利用施設による避難誘導を前提として、避難確保計画の作成を行ってください。

## 留意事項④

- ▶ 施設利用の閉鎖（利用中止）を行うこととしている場合など、災害が発生するおそれがある場合に平時と異なる対応を行う場合は、事前に家族に説明し、理解を得ておくことが、重要です。

## 留意事項⑤

- ▶ 避難確保計画に記載した役割を遂行するためには、ある程度、担当者が確定するような役割分担を決めておくことが必要です。
- ▶ しかしながら、災害時には想定していた人員が集合できないことも考えられます。
- ▶ 参集した人員を確認し、不足時等に臨機応変に対応できるような案も想定しておく必要があります。

## 留意事項⑥

- ▶ 洪水浸水想定区域図の、洪水時家屋倒壊危険ゾーン（洪水氾濫）や洪水時家屋倒壊危険ゾーン（河岸侵食）は、洪水氾濫流や洪水時の河岸侵食により、家屋が流出・倒壊するおそれがある範囲となります。
- ▶ 土砂災害警戒区域は急傾斜地の崩壊等が発生した場合には住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域です。
- ▶ この範囲からは、立ち退き避難が必要です。